

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201617	
法人名	(株)フロンティアの介護	
事業所名	グループホームあおいの憩	
所在地	静岡県葵区古庄1丁目7-45	
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.frontier-gp.jp/nursing-home-search/detail/aoi_gh
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	東海道シグマ 地域福祉支援事業部
所在地	静岡県静岡市葵区御幸町8-1 JADEビル6階
訪問調査日	令和5年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様がいつも【心地よく 安心 安全】な空間をご提供出来るように職員全員で努めております。施設の特徴としては、おやつ作りや作業療法的なレクリエーション活動に力をいれており、季節の飾りはご利用者様に作って頂いております。また、毎月のイベントでは季節を感じて頂けるように工夫しています。【 当たり前の事を当たり前 】ご利用者様ファーストの精神で毎日笑顔を届けていく事が目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関係がすばらしく、お互いに野菜ができると届け合ったり、ペットを連れて遊びに来てくれたりと気軽に行き来する関係性が構築できている。また、ご利用者が日常的に家事をしており、配下膳をしたり食器を洗ったりと自発的に行っている。その他、ご利用者の個性を重視しており、家事をする方、塗り絵をする方、テレビを観る方、ipadで好きな音楽の動画を観てロケている方など多様な生活を送っている。さらには、管理者に職員の意見や要望を聴取する姿勢が備わっており、日頃の雑談の中から聞き取り、それを反映することも少なくない。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は朝の申し送りの際に職員一同で唱和、共有しております	理念【すべての人の笑顔をめざして】玄関、各フロアに掲示されている。朝礼でも毎朝唱和されている。職員の意識が高く、入居者・家族・地域の方とのコミュニケーションを積極的に図り、職員と共に理念に近づくよう共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括支援センター主催の家族会等での施設と交流を図っている	地域の方と野菜を分け合ったり、飼っているペットを連れてきてもらい遊んだり、逆に大型ゴミを処分する時など声をかけて地域の方のゴミを処分するなど交流を図っている。草むしりなど入居者と一緒に行うこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で収穫した野菜をご近所に配る際に一緒にさせて頂いたり、道路沿いの草むしりのお手伝いをさせて頂いております		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様からの意見を元にサービス向上に努めております	年6回開催している。家族が参加しやすいようにイベント日などに開催をしている。常に施設を開放し、意見を聞ける体制を整えている為、会議で要望が出ることは少ない。会議では介護の苦労話や困り事なども、話をしやすい雰囲気作りをしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢介護課や生活支援課と随時連携を取り合い協力体制を築かせて頂いている	生活保護の緊急措置の入居受け入れを行っている。市の担当者による訪問調査も来てもらいアドバイスを頂いている。書類はできるだけ市に届け、その際には情報を共有している。その他、地域包括支援センターからの紹介もあり、常に情報を提供し、連携をとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針・規定を理解し、内部研修等の際に職員に対して周知している	現在、身体拘束対象者はいないが、全体会議での研修・委員会は毎回開催している。また、夜間トイレの回数が多い方の場合、転倒リスクがある為、居室入口でセンサーを使用している。	身体拘束をしていないことは素晴らしいです。研修で行っていると思いますが、スピーチロックを無意識に行うスタッフがいるため、お互いに注意し合える環境を継続して作っていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	指針・規定を理解し、内部研修等の際に職員に対して周知している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	指針・規定を理解し、内部研修等の際に職員に対して周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内かご利用者様のご自宅にて契約を行っております。十分な説明を心掛けております		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議で出た意見に関しては、次回の会議にて発表し、要望が出た際には迅速に対応しております		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面談や会議などの中で出た話を集約し運営や改善に努めている	全体会議は毎月実施している。その際に、管理者はスタッフの意見や提案を聞き運営にかかしている。基本スタンスは、入居者にとって良いことは自由にやらせてもらう事。また、全体会議の他にミニカンファを週1回程度行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的に就業時間内に業務を終わらせ、時間外や休日出勤が無いような運営を心掛け、実行しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修(1回/月)と法定研修を通じて職員のスキルアップに努めております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター主催のグループホーム協議会等の集まりを利用して他施設と交流を図っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後の環境への変化に対しては、職員が極力寄り添い不安や要望に傾聴しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約時はもちろんの事、随時連絡を取りながら関係づくりに努めております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の契約時はもちろんの事、随時連絡を取りながら関係づくりに努めております		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	困っている時は手をそっと差し伸べる関係づくりを目指しております		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との関係が在宅に居た時と変わらぬように、ご面会や外出等の機会を増やしております		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りの御面会が出来るように支援しております。また、外出・外泊も可能な限りお願いしております	友人からの電話・面会がある。本人が「電話をしたい」と希望する時も希望を受け入れている。馴染みのある美容院・かかりつけ医に家族と通っている方もいる。自宅で行っていたマッサージも継続して利用されている方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の架け橋になるような関わりを心掛けております		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良により医療機関などに入院した場合の退去や、療養施設への転院で退去する場合のフォローは出来ております。その後、ご家族様より相談を受けた場合は親身に受ける準備は出来ている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数のグループホームである為、いつもと違う様子が直ぐに気付く事が可能である為、カンファレンスを小まめに開催しご利用者様の要望に少しでも近付けるように努めております	入居者が自由に希望を発言できる環境になっている。「ラーメンが食べたい」とお話があり、みんなでラーメンを作って食べたこともある。行動の制限がないため湯呑をキッチンで洗う入居者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅で使用されていた家具や衣類をお部屋で使わせて頂き、在宅生活の延長線を目指しております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	D3D4シートを活用し、ご利用者様への必要なケアを常に検討・検証し、必要なケアが必要な時に提供する事にしています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者様一人一人に最適なサービス内容を提案させて頂き、施設内で安全・安心な生活を過ごして頂いております	スタッフが毎月モニタリング・アセスメントを率先して行っている。多職種と共同で介護計画書を作成している。多職種の様々な視点で、計画を作成していることで、内容もかなり充実している。職員からも意見がでて介護計画に沿って支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やカンファレンスにて抽出した意見を元に施設サービス計画書を作成して個別化を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様やご本人様の要望を最大限応えるよう努めております。しかし、身体的リスクを伴うような内容に関しては答えられないケースも御座います		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの馴染みの関係・場所を途切れる事無く御家族様の協力を得ながら社会資源を活用しております		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通われていたかかりつけ医を希望されている方に対しては、入居後も通院して頂いております	自宅の時に通っていたかかりつけ医に行かれる方もいる。施設に看護師が勤務しており、協力医とも常に連携を取っている。医師・管理者・看護師のグループLINEがあり必要時は連絡をしあっている。眼科などは家族・管理者が同行受診をすることもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医(あうるクリニック東海)と医療連携を通じ迅速な情報提供に努めております。また施設内の看護師と情報共有を密にし【気づき→検証→報告】につなげるようにしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中や退院前の病院関係者と情報交換をする事で、御家族様には早い段階からお話をさせて頂いております。御家族様 御本人様の想いに添えるように支援しております		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	同上	入居時に【重度化した対応の指針】【終末期の医療についての事前調査書】で意向を確認している。看取り期にも家族に説明を行い希望に沿いながら対応をしている。今年度看取り対応2名。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置BOX・急変時マニュアル・緊急連絡先を各フロアに常時用意しております。また定期的な内部研修で事故対応に関して確認を実施しております		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練はもちろんの事、備蓄品に関しても準備しております。発電機もあり。	フローチャートが各フロアに掲示してあり、いつでも確認する事ができる。マニュアル・BCPも出来ている。食料及びガソリンの備蓄も行っている。訓練は年2回。来年からは3回にして1回は突発で実施する予定である。	石川県での地震のように災害はいつ起こるかわかりません。訓練を行うことによりスタッフの敏速な対応ができるとも言われています。できるだけ大勢の入居者様に参加していただければと思います。年3回の訓練とBCPの見直しに期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様に対しての言葉掛けはとても重要です。その方の気持ちに傾聴しその方の立場で物事を考えた声掛けを意識しております。	職員の声かけが入居者によって違っている。無駄に大きい声は出さず、その方にあった声のボリュームで話をしている。排泄の声かけも他者に聞こえないように上手に声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞く姿勢と時間を常に持つ事を意識し、ご利用者様が声を掛けやすい雰囲気を作るようにしております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	大まかな起床や食事の時間は御座いますが、基本的にご本人様の意志で生活して頂いております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅から持ってきて頂いたお気に入りの服を着たり、念入りに髭剃りをされていたり、髪の毛をセットしたりと、身だしなみを大切にしております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きは御利用者様をお願いしています。また口腔体操と歌を食前に唄い気分を高めております	箸・お茶碗・お箸・湯呑はご自分が使ってきたものを持ってきてもらう。湯呑を洗う、下膳をするなどは入居者にやってもらう。キッチンがフローアールと一緒に食事の匂いがして楽しみにしている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の咀嚼・嚥下機能に合わせた食事の提供をしています。よって数種類の形態がありその中で適切と思われる形態をご提供させて頂いております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはご自分でされる方もいますが、職員が付き添い対応する場合も御座います		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力 トイレにご案内をし自然排泄を心掛けています。往診医と連携した排泄ケアに努めております	自立している入居者が多い。職員の介護が必要な方はその方の排泄時間に合わせて声をかけている。記録管理はパソコンで行っており、数日排便がないと本社・管理者から声がかかり、医師・看護師と連携して対応している。トイレは2箇所あり好きな場所に入っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師との排便コントロール(下剤)はもちろんですが、廊下歩行練習や腹部マッサージ等しながらなるべく便秘が解消出来るようにしております		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	2回/週 入浴を実施しております。出来る限り丁寧に時間の幅を利かせた介助を心掛けております	週2回日程を決めて入浴をしているが本人の希望に沿っている。入りたくない日は日にちを変更している。浴槽は跨げない方がいるので浴槽一部がドアになっていて跨がなくても湯舟に入ることができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温と掛物 職員の巡視の仕方 排泄時間を工夫しながら、ご利用様が安眠に繋がるようにしております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導にて協力薬局の薬剤師のアドバイスや相談をしながら、過剰摂取や副作用による変化を見逃さないように注視している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族様やご本人様の要望を最大限応えるよう努めております。しかし、身体的リスクを伴うような内容に関しては答えられないケースも御座います		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様が同行し外出させて頂く事 職員が施設周辺やお買い物に同行して外出する事などがあります	「服を買いに出かけたい」など希望を頂くと買い物に出かける。100円ショップに出かけることもある。家族とも外食をしたり外泊をしたりしている。	スタッフの人数が限られている中、ご利用者様のための外出は大変かと思いますが、望んでいるご家族も複数おられるため、今後も可能な範囲で外出機会の確保をお願いできればと思います。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に関しては施設で管理させて頂いております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に出来ます		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓と清掃などの環境整備に力を入れております。また、今年に入ってからです電球を蛍光色から電球色に少しずつ変更していますので、フロア内が暖かい雰囲気となってきました	共有部には無駄な物が置いていない。各居室付近の壁には入居者が作ったクリスマスツリー(ペットボトルの蓋使用)が飾られていた。共有部の壁にも季節・日時がわかるような工夫をしている。TVがついていて見ている人、タブレットで歌を楽しんでいる人がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御利用者様同士の中で気の合う方たちは席を近くに座り会話を楽しまれております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具や衣類をお部屋で使わせて頂き、在宅生活の延長線を目指しております	できるだけ自宅に近い環境を作っている。アセスメント時に自宅の居室の写真を撮り配置を自宅と同じようにしている。布団も自宅で使用していた物を使用いただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要以上にケアをせず、出来る事はご自分でして頂いております		

目標達成計画

事業所名 グループホームあおいの憩

作成日: 令和 5 年 12 月 15 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	22	退去・転院後のご家族様やご本人様からの支払い以外の相談が無い事	退去後も今まで通り関係性を繋げていきたい	退去後に施設で保管している写真のデータを印刷し手紙を添えて郵送する	1年間
2	27	短時間のカンファレンスを開催しているが、記録に残っておらず、振り返りが出来ていない事	話し合った内容を記録に残す	「サービス担当者会議の要点」に記載し内容をケアプランに活かしていく	6ヵ月
3	35	全員が災害マニュアル通りの動きが出来ていない事	火元にもよるが、職員全員が避難経路や手順を理解出来るようになりたい	年に2回→3回に総合訓練を増やし、訓練後のフィードバック重ね理解につなげる	1年間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」にのっとり、目標を目指して取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()